

月刊びゃっきープレス

2007

11 月号

毎月初回ライブ日発行

発行 (謝)びゃっきーライブ連盟
http://www.satram.jp/byacky/
byacky@satram.jp

配布 びゃっきーご本人かライブハウスの人

無料配布

↑あたりまえ



役に立たない偏重サイト
情報がグレードダウン!!

アクセス不要
http://www.satram.jp/
info@satram.jp

byacky press

発売

びゃっきー初のCD「60億分の1」が11月9日について発売となる。弾き語りデビュー3年にしてようやく漕ぎ着けたCD発売。インディーズならではの遊び心を満載した、楽しいCD。お求めはびゃっきーライブの際に会場です。1枚500円。



60億分の1

ついに完成しました!

2004年の弾き語りデビューから3年ちよつと。「これからはネット時代だ」と公言してきたびゃっきーが、ついにCDという形のあるメディアに自分の音楽を収めて発表した。

プロジェクトの発足はちょうど一年前。まっぼくりさんというレコーディングエンジニアを迎え、レコーディングを始めましたが、お互い何もかもが手探り状態で、試行錯誤を繰り返した。状況が大きく変わったのはまっぼくりさんがコンデンサーマイクを手に入れたから。プロジェクト開始から約半年が経った春だった。このままではプロジェクト自体が頓挫しかねない状況だったが、二人で「60億分の1」を録音しなおして息を吹き返した。

その後はコーラスを入れたり、急遽まっぼくりさんのギターを入れたり、順調な録音作業。そして二人であいでもないこいでもない揺れに揺れまくったミックス作業。最後は余計な部分を切り落としてようやく一曲完成。血と汗と努力がそこに結実した。

続けて「深呼吸した」の録音を開始した。一度ピアノを録音し終えた後、歯切れのよさを出すためにアレンジを変更してしまっただけで、再録のセッションで全部録音をやり直した。録音をやり直した後、重ねていったコーラスはなかなか面白く、笑える仕上がりになった。さらにアナログライクなシンセストリングスを豪勢に加え、勢いも増した。

当初はその2曲で行こうと考えていたのだが、急遽打ち込みの曲を追加しようと思いついた。昔の持ち曲の中から割とクセのある「Luna」音を選り、追加録音を行った。弾き語りのびゃっきーしか知らない人には、びゃっきーをより深く知ってもらうのにもうどうしようもない機会となった。



ネットダウンロードとは違って、CD作成はそこか先もまだまだ大変な作業だった。レディオヘッドの新作がダウンロード販売で、価格は1ポンド以上ならリスナーの言い値でOKというのが話題になっている中、時代に逆行するかのようになっ制作。これは非常に煩雑な作業であった。歌詞カードのジャケットのデザイン、歌詞カードの中面のデザイン、ジャケット裏面のデザイン、ケース裏面のデザイン、ケース中面のデザイン、CDレベリングのデザイン。普通こんなことは専門家でないとこなせない。しかし運のいいことにびゃっきーの身近にはSHIMIZUCHIというイラストレーターが存在した。右記のデザインを次々に依頼し、かなりムリにしてもらいつつも、優れたイラストが順々に上がってきた。にも関わらず、色やらフォントやらにびゃっきーは大層いちやもんをつけ、それでも腐らずに一緒にやってもらった甲斐があり、素人CDながら、ものすごく満足度の行くCDが出来上がった。

こうなると欲が出て、「なんかこのキャラクターを使ってフラッシュアニメを作るとか」と気軽に頼んでみた。CDをエ

ンハンド仕様に作って、オマケアニメをつけようという作戦。しかし具体的にコンテがあるわけではない。ただでさえデータメナイメージをものすごく難に伝えただけで、素晴らしいものが出来てきた。

そうなるさらさら欲が出て、「なんかCDを1枚ずつ包みたいから、包み紙とそれを止めるシールをデザインして」と気軽に頼むびゃっきー。それすら快諾してもらってようやく完成に漕ぎ着けたCD。ところがそこに落とし穴があった。

まず材料を集め

（びゃっきー）

なくしてはならない。空のCDケース、印刷できるCD-R、両面印刷の光沢紙、包装紙の黄色い紙、シール用の特殊印刷シート、完成品を入れるテープつきのビニール袋。これら材料の入手の目途がつくまでが大変な作業だが、出来上りにはとても満足している。ぜひライブで見かけたら手にとってほしい。